

2026. 3. 5 レジリエンス協会公開研究会資料

## 京都市が目指すレジリエントなまち



**CITIES  
NETWORK**

レジリエント・シティ京都市統括監

Chief Resilience Officer(CRO)

藤田 裕之

[hrfujita@city.kyoto.jp.jp](mailto:hrfujita@city.kyoto.jp.jp)

# レジリエンスの二つの要素

- ▶ ダメージでの落ち込みを耐え忍ぶ

「しなやかさ」 「打たれ強さ」

(想定外を排除し、あらゆる事態を想定した備え)

- ▶ ダメージを受けて落ち込んででも  
被害を最小限にして立ち直る

「回復力」

(元以上に復興、元とは違う形での復活)

# SustainabilityとResilienceの関係

持続可能 ≠ 現状維持

「物事は変化するもの」

落ち込んだ時の回復 ⇒  
落ち込まないための備え

レジリエンス

「レジリエンス」の結果が「持続可能」な状態

# レジリエンスにおける 「危機・ダメージ」の二つ要素

<基本的には「危機管理」に関わる全ての事象>

## 突然襲ってくる 外的ショック

大規模地震，河川の氾濫，テロ攻撃，集団感染など

密接な関係

## じわじわと忍び寄る 内的ストレス

気候変動，環境汚染，人口減少（急増）・少子高齢化，  
地域コミュニティの希薄化，貧困・経済格差，犯罪の増加，  
失業・非正規雇用，など

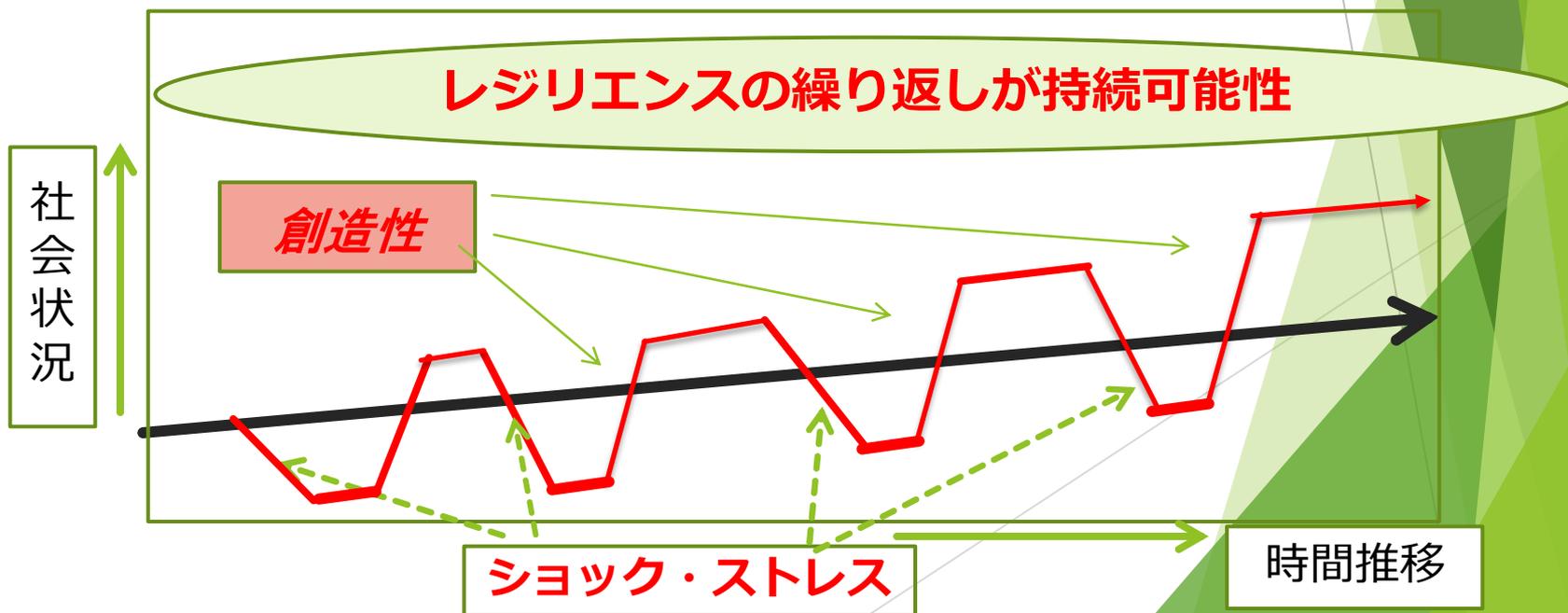
<決して自然災害に特化した概念ではない！>

# 「持続可能性」と表裏一体の「レジリエンス」 (Sustainability) (Resilience)

- ▶ あらゆる事象を「想定外」とせず、いかなる危機やダメージに対しても、しなやかに**現状以上の改善**、元の形とは異なる**復活**を可能とする

「レジリエンス」⇒ 「雨降って、地固まる」「災い転じて、福となす」

- ▶ 復元力・回復力の源となる「**創造性**」との融合



レジリエンス協会、京都市、および公開研究会参加者向け。再配布禁止。

# 「想定外」の災害を考える

平成25（2013）年9月の台風18号による嵐山、下鳥羽での越水



# あらゆる災害への対処

地震

豪雨

気候変動

火災

強風

テロ

同時発災の可能性も  
視野に入れ、  
各種機関・団体・  
世代間の  
連携が不可欠

感染

犯罪

事故

社会全体のレジリエンス

(事例 1)

**2018年7月6日深夜、岡山県に大雨特別警報が出ていた中、同県総社市下原のアルミ工場「朝日アルミ産業」で起きた爆発事故。近くの川が氾濫して大量の水がアルミニウムが入った炉の中に流れ込み、化学反応を起こし大爆発が起きたもの。そのため、想定されていた避難経路等も使用できなくなった。**



## (事例 2)

▶ 同じく、台風 21 号 (2018 年 9 月) に伴う強風で、京都市内でも大規模な停電が発生 (復旧まで約 2 週間)

▶ 暴風の影響で山間部の倒木が相次ぎ、携帯電話の中継アンテナも破損。立ち入り困難な地域での復旧作業が難航し、山間部が孤立状態に。

▶ 静原地区では、停電に加え、携帯電話も不通になり、静原消防分団の通信衛星緊急電話のみが通信手段に。



(京都市北区、関西電力提供)

(事例3)

- ▶ 2019（令和元）年10月の台風19号被害  
～関東・東北を中心に140カ所で堤防決壊～
- ▶ 土砂災害は20都県で935件発生
- ▶ 死者・・・96人，行方不明者・・・4人（令和元年11月27日付 国土交通省資料）
- ▶ 計画運休を実施していた鉄道の車両が水没



北陸新幹線  
長野車両基地で10  
編成が水没

一帯は、歴史的に  
繰り返し水害に遭っ  
てきた地域

## レジリエント・シティのスタート 「世界100のレジリエント・シティ」

- ▶ 世界レベルでの「著しい都市化」, 「グローバル化」, 「気候変動」, 「格差社会」等の課題を踏まえ, ロックフェラー財団が財団創設100周年を記念しプロジェクト立ち上げ (2013)
- ▶ レジリエンス構築を共通理念とする主要都市の国際的ネットワークを目指し, 2013年~2015年の3ヶ年で, 世界100都市を募集した中で京都市も選定・・・CRO (Chief Resilience Officer) が必置
- ▶ 2019年3月「京都市レジリエンス戦略」を策定
- ▶ 「京都市SDGs未来都市計画」策定 (2021)
- ▶ 現在もRCN (レジリエント・シティーズ・ネットワーク) として約100都市との連携のもと活動を展開



「京都市レジリエンス戦略」（2019）の重点分野を基本とする  
「京都市SDGs未来都市計画」の策定（2021）  
～「千年の都・京都発！SDGsとレジリエンスの融合  
しなやかに強く、持続可能な魅力あふれる都市を目指して」～



【6つの重点的取組分野の関係図と関連の深いSDGsのゴール】

# 安全なまちづくりを支える様々な取組

## 京都に伝わる「暮らしの哲学」「生き方の美学」



「学区民運動会」



消防団活動



「自主防災会」の訓練



子ども見守り活動



祭礼



住宅用火災予防装置点検



使用済み天ぷら油回収



地藏盆



門掃きの伝統



伝統文化



まち美化活動



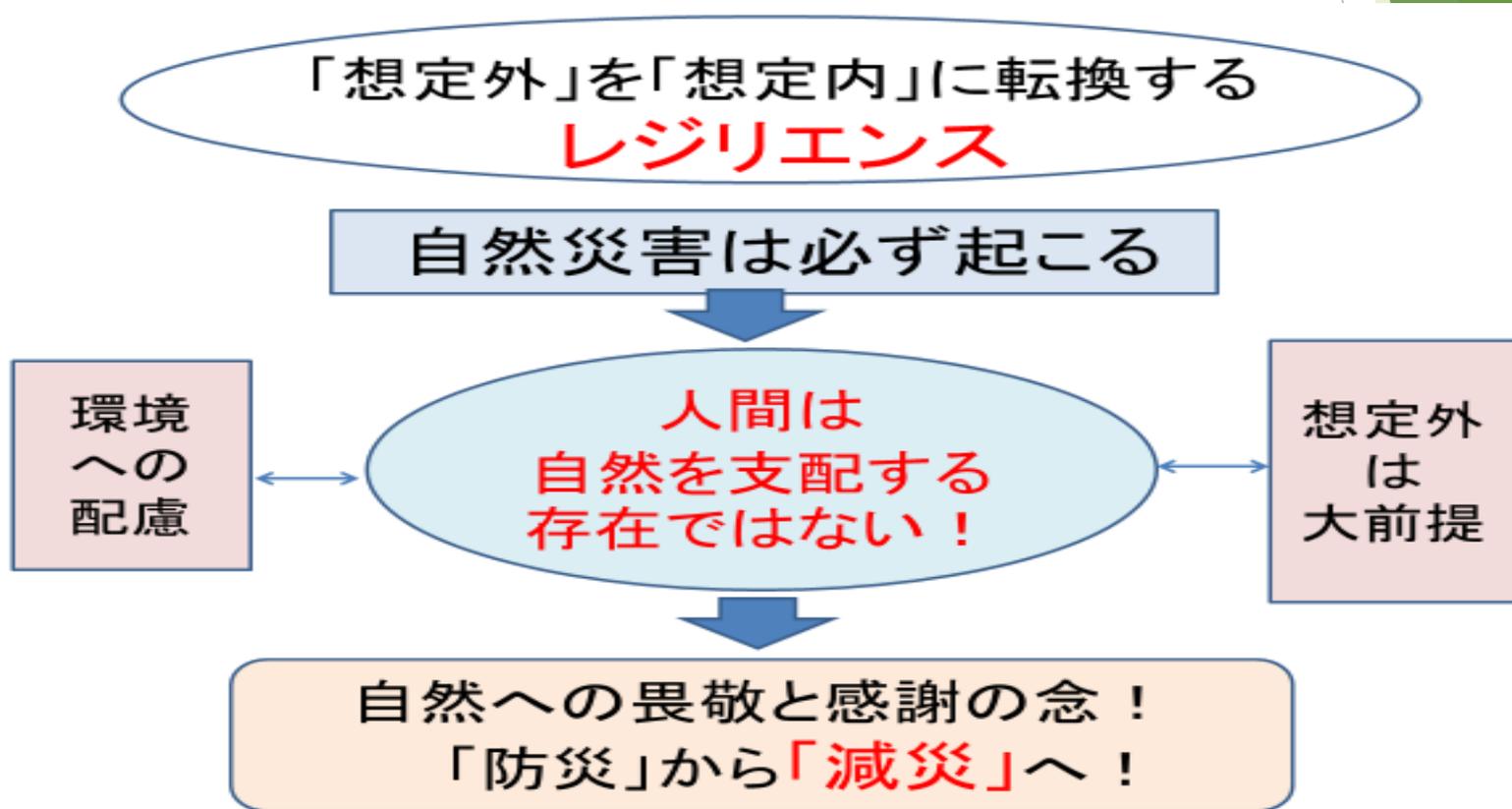
# 自然との共生？

防災と減災・・・人間は自然の支配者ではない！正しく怖がる！

したがって「想定外」のことは、必ず起こり得る！

自然災害そのものは防げないが被害は最小限に！

「備えよ！常に！」の心構えが大切



# レジリエンスにおける 人間と自然の関係性

- ▶ 人間は自然を支配する存在ではない
- ▶ 人間は自然の中でのみ生かされる自然と不可分な存在
- ▶ 自然（地球）の時間的空間的な広がり：限界への認識  
（プラネタリー
- ▶ 「プラネタリー・ヘルス」の視点（人間も生物の一員）

# 「現代都市文明」の課題

限度を超えた人口集中

自給自足から程遠い食糧，  
エネルギー，人材確保

華やかで便利，  
かつ効率的で経済性に富んでいるが，  
実は脆弱で不安定な現代都市  
～しかも，地球環境に与える影響は甚大～



## 京都が進むべき方向は？

公共交通機関，  
ライフラインの  
脆弱性・・・帰  
宅難民

自然から乖離し  
た生活が生み出  
す人間性の喪失

地震，洪水・強  
風，テロ，感染  
症への対応力不  
足

## レジリエンスから見た 現代都市文明への反省

- ▶ 食料、エネルギー、さらには人口動態における「自給自足」からの乖離
- ▶ 自然環境への負荷、自然資源からの行き過ぎた収奪
- ▶ 社会における自助・共助の機能の弱体化、人間性の喪失
- ▶ 利便性、経済性を追究するあまり自然の摂理から離脱した市民生活
- ▶ 災害やパンデミック対応を含む危機管理体制の弱体化

# 都市のレジリエンスに求められる要素

頑強性 (Robust)

省察力 (Reflective)

余剰性 (Redundant)

柔軟性 (Flexible)

包摂性 (Inclusive)

統合力 (Integrated)

臨機応変力 (Resourceful)

適応力 (Adaptive)

創造力 (Creative)

多様性 (Diverse)

ARUP 社の定義に一部加筆

# 災害時だけに強いまちはありません！

- ▶ 独居高齢者や障害者、外国籍住民などとの交流
- ▶ 子どもの見守り、子育て世代への支援
- ▶ 夏祭り，地蔵盆，寺社の祭礼，伝統行事
- ▶ 門掃き，ゴミ出しルール，使用済み天ぷら油回収
- ▶ 空き家・ゴミ屋敷，細街路対策
- ▶ 困りを抱えた世帯への相談，支援
- ▶ 区民運動会，防災訓練を契機とした関係づくり

～ネット社会でも，人の顔が見える関係が基本～

普段からの「誰一人取り残さない」繋がりが，いざという時に力を発揮する⇒同時にそのためにネット情報やソーシャルメディアも有効に活用

## しかし、人口減少・高齢化、過疎化のもとでは、激甚化のリスクが一層高まる

- ▶ 地域コミュニティの弱体化、自治会・町内会加入率の減少、自治会・町内会活動の必要性を感じる住民の減少（とりわけコロナ禍の中で加速）
- ▶ 役員・構成員の高齢化少数化に伴う担い手不足
- ▶ 各種関連団体における弱体化の進行
- ▶ 各種団体間に残る縦割り解消の困難
- ▶ 地域格差拡大に対する対応の難しさ
- ▶ ソーシャル・メディア活用の遅れ
- ▶ 周辺部などでのインフラ整備の遅れ

# 各種団体の連携の見直し例

～足元の身近な取組から～

- ▶ 「区民運動会」と「防災訓練」の融合
- ▶ 「高齢者見守り」と「防火、防犯」の連携
- ▶ 「日本赤十字、共同募金」の集金組織からの脱却
- ▶ 学校統合された区域での学区間連携
- ▶ 避難所運営における自主防災会と消防団の連携
  
- ▶ ハイブリッドカー所有者との停電時の協力確保
- ▶ 学区内に避難所が複数ある場合の役割分担明確化
- ▶ 自治会・町内会活動におけるソーシャル・メディアの活用促進

# 新しいコミュニティづくりに向けて！

寺社

旧来の地縁組織中心の  
学区コミュニティ

事業所

大学

学校  
子育て施設

企業

ボランティア  
NPO

P T A

インターネット  
ソーシャル・メディア  
ICT

伝統文化・芸術・祭礼

「志縁組織」とも融合した人と人との繋がり  
～インクルーシブな文化風土の構築～

# 「レジリエンス」は深化・成長する理念

## 「地球の支配者」という驕りからの脱却

- ▶ ⇒自然の中で生かされている感謝の念で、
- ▶ 人にも社会にも自然にも優しいライフスタイルの実践

## 「自分さえ良ければ！」「今さえ良ければ！」の克服

- ▶ ⇒豊かさ・便利さのみを追い求める価値観からの脱却

## 「想定外」を排除し、ピンチをチャンスに！

- ▶ ⇒柔軟性、適応力、余剰性、融合力、  
包摂性（インクルーシブ）・・・

## 「レジリエンス」は決して与えられるものではない

- ▶ ⇒当事者意識，参画意識を持つ活動の中で得られる資質

# レジリエンスにおいて不可欠な 「4つの繋がり」への気づき

自分さえ良ければ ✕

周囲の人々

人間は自然の支配者 ✕

自然や環境

関係性、感謝、当事者意識

過去・未来

今さえ良ければ ✕

社会の仕組み

誰かがやってくれる ✕

# 京都基本構想（2025.12.12）の特長

## 京都学藝衆構想

### 1 京都が未来に受け継いでいくべき3つの価値（序文）

人には人柄があり、国には国柄があるように、まちには「**まち柄**」がある。  
「まち柄」とは、そのまちが長い歴史の中で大切に育み、伝え遺してきた価値

### ○ 京都の「まち柄」とは、歴史と文化、自然との共生、人とのつながりの3つ

#### ① 歴史と文化から、人としての豊かさを学び続けていく

（歴史と文化を介して人間性を回復できるまち）

- ・ 1200年以上の歴史の中で、お祭り、藝道、工芸、神社仏閣、庭園といった文化が育まれてきた
- ・ これらの文化は、このまちでくらす人々が伝え遺してきたもの

➡ だからこそ、いまを生きるわたしたちは、京都の歴史と文化を次の世代に引き継いでいくことが大切

#### ② 自然と謙虚に向き合い、共生する姿勢を大切にしてい

（自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち）

- ・ 京都は、山々に囲まれ、鴨川・桂川・琵琶湖疏水、井戸水といった豊かな水に恵まれている
- ・ この自然が、人々の生き方や美意識、信仰といった精神文化を育んできた

➡ だからこそ、わたしたちは自然の中を生きる命の一つであるということを改めて意識することが大切

#### ③ まちを支えてきた「つながり」を未来につなげ、世界とともに歩んでいく

（自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち）

- ・ 京都には、町内会や学区、お祭り、お稽古事、登下校の見守りといった人と人の温かい「つながり」が残っている
- ・ こうしたつながりが、長期的な共生の基礎となる「信頼」をつくってきた

➡ だからこそ、互いの個性や文化的背景を尊重し、つながりを広げていくことで、世界の平和に貢献していくことが大切

残念ながら「レジリエンス」は、文言としては登場せず

# 全ての人が担い手となり、人が育つまち・・・学藝衆構想

～どのような市民像が目指されているのか？～

- ▶ 京都基本構想には、「学藝衆構想」という聞き慣れ合い表現が用いられているが、そこで様々な課題に対して当事者として対処し、課題を克服していく人材の育成が、取組の継続のために不可欠であることも指摘。
- ▶ レジリエンスを体得した人格と親和性があると考えられるが、表現としては一切登場しない。
- ▶ レジリエンスのある社会の担い手も、レジリエンスを実践していく中でこそ育まれる。
- ▶ その結果、レジリエンスのある社会は、レジリエンスを理解し、実践する人々が活躍する社会と考えることができる。
- ▶ どのような環境があれば、人は育つのか？物の豊かさや便利さの中では育たない生きる力は、どのように養えるのか？
- ▶ 「学藝衆」はどのように育まれるのか？

# 現代社会の「不幸」と「不安」 ～Well-being の視点～

自然を支配しようとする無限の欲望 ⇔ 不幸

想定外の事態への心構えの不足 ⇔ 不安

「吾唯足るを知る」

「知足者富」（老子）

地球上に生命を授かった一生物としての感謝や謙虚さを  
認識できていることも「**学藝衆**」たる上での要素？

伝統的な文化・芸術や価値観を会得し、  
体感することが果たす役割



龍安寺の蹲

# レジリエントな社会とは

レジリンスを備えた市民・団体が  
集い、活動し、育つ中で、  
より高次のレジリエンスを構築する  
循環型の持続可能な社会！

～「京都学藝衆構想」とも高い親和性～

# 「成長」社会から「定常型」社会へ ～決して立ち止まることではない「現状維持」～

- ・ 経済成長至上主義（右肩上がり）からの脱却
  - ・ **人口減少**を含む右肩下がり「縮小社会」への挑戦  
→下りのエスカレーターに乗っている私たち
  - ・ かつて経験したことのない状況への挑戦  
⇒「**創造性**」が必要
  - ・ 社会の変革に向けて、**人が育つ仕組み**の構築が必要
  - ・ 新しいシステムを創り出す創造的プロセスの中で人は育つ
- <社会の担い手の育成によってのみ持続可能性は実現>



## 持続可能な定常型社会

⇒人が育ち続ける社会

⇒「**レジリエンス**」のある社会

# 京都基本構想と京都学藝衆構想 (追加)

# 世界文化自由都市宣言

都市は、理想を必要とする。その理想が世界の現状の正しい認識と自己の伝統の深い省察の上に立ち、市民がその実現に努力するならば、その都市は世界史に大きな役割を果たすであろう。われわれは、ここにわが京都を世界文化自由都市と宣言する。

世界文化自由都市とは、全世界のひとびとが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市をいうのである。

京都は、古い文化遺産と美しい自然景観を保持してきた千年の都であるが、今日においては、ただ過去の栄光のみを誇り、孤立して生きるべきではない。広く世界と文化的に交わることによって、優れた文化を創造し続ける永久に新しい文化都市でなければならない。われわれは、京都を世界文化交流の中心にすえるべきである。

もとより、理想の宣言はやさしく、その実行はむずかしい。われわれ市民は、ここに高い理想に向かって進み出ることが静かに決意して、これを誓うものである。

昭和53年（1978年）



## 2 わたしたち京都市民がめざす、9つのまちの将来像（第四章）

序文が示す価値を未来に受け継いでいくため、それぞれの価値に紐づける形で9つのまちの将来像を描く

※ わたしたち京都市民とは...

市民の皆様はもちろん、事業者、団体、行政、市会、京都とさまざまな関わり方を有する人々を含む概念

### 歴史と文化を介して人間性を恢復できるまち（第一節）

#### ① 本物（ほんまもん）を追究・創造し続ける

短期的な利益のみを求めるのではなく、市内外の人々と積極的に連携・協力しながら、ほんまもんを創造し続けることで、まちの活力や基盤としていきます。

#### ② 世界の文化と交流し、新たな文化を創造し続ける

世界の人々と交流を重ねながら、新しい文化を創造し、またその文化を受け容れることで、世界へと活躍の場を広げるとともに人々に選ば<sup>あふ</sup>れるまちにしていきます。

#### ③ 「夢中」と「感動」に溢れ、学び続けられる

未来を担う子どもや若者をはじめ、このまちの至るところに息づく歴史や文化に触れられる環境を整えていくことで、だれもが学び続けられるまちにしていきます。

#### ④ 平穏と静寂のもとで自己と世界に深く向き合える

あらゆる分断を乗り越え、尊重し合えることを再確認できるまちであり続けることで、世界の平和と共栄に貢献していきます。

# 歴史と文化を介して人間性を 恢復できるまち

- ▶ 文化・芸術、伝統、ライフスタイル、価値観を受け継ぎ、次代に伝えていくバトン役としての自らを意識
- ▶ そのバトン役になるためには、目先の利便性や経済性に侵されることなく、豊かな人間性を維持できることが不可欠
- ▶ 一間、「無駄」や「面倒くさく」見える事柄の中にも、「暮らしの美学」「生き方の哲学」が存在することに気づくことが重要
- ▶ そうした感覚を実際に体感できる祭礼や行事に積極的に参加できる機会が身近にあることも貴重

## 自然への畏敬と感謝を抱けるまち（第二節）

### ⑤ 謙虚に自然と関わり続ける

歴史と文化を形づくってきた自然の恵みを大切にするとともに、自然の中を生かされている命の一つであるという謙虚さのもとで、日々の暮らしを営み、自然と共生するまちにしていきます。

### ⑥ 災害や感染症などの危機からしなやかに立ち直る

歴史の中で培ってきたしなやかさを保ち、さまざまな主体と連携・協力しながら、これから生じうる危機に備え、対応する術を探求し、立ち直ることができるまちにしていきます。

## 自他の生をともに肯定し尊重し合えるまち（第三節）

### ⑦ 多層的でゆるやかなつながりが続く

住民自治の伝統を大切にしつつ、肩書や立場を超えて、さまざまな人々とつながりを紡ぎ続けることにより、誰もが安心して暮らし、愛着を抱くことができるまちにしていきます。

### ⑧ 支えあいの中で日々の生活を営める

互いに支え、支えられる関係の中で、誰ひとり取り残されることなく、自分らしく、安心して安全に過ごすことができるまちにしていきます。

### ⑨ ひとりひとりの個性や価値観を尊重し合える

性別や国籍などに関わらず、互いを認め、尊重し合うことで、すべてのひとが個性を発揮し、それぞれが望む生き方や暮らし方を実現できるまちにしていきます。

# 自然への畏敬と感謝の念を抱けるまち

- ▶ 私たちは、決して自然の支配者ではなく、自然の中で行かされている存在であることを自覚。
- ▶ レジリエンスにおいて、自然災害では想定外の事態が起こると考える根拠は、自然が人間存在と比べてあまりにも壮大であるが故。
- ▶ 「正しく怖がる」と共に、全ての生命にとって不可欠な自然の営みに感謝の念を持つことが肝要。
- ▶ 山紫水明の景観や町並みも自然の中で行かされていることを実感できる要素

# 自他の生をともに肯定し尊重 し合えるまち

- ▶ レジリエンス戦略において、最重視している項目の一つである「地域コミュニティを中心とする支え合い助け合いの社会」が根底。
- ▶ そこでは、多様性が尊重され、世界文化自由都市宣言で謳われた、様々な違いを超えた人々の交流が大切。
- ▶ そのことが、いざという時の危機管理や環境保全にも結び付くことへの気づき

## VI 「夢中」がつなく、学び合いのコミュニティ 「京都学藝衆構想」

### 「ひらく」「きわめる」「つなく」

#### ● 「夢中」がつなく、学び合いのコミュニティ 「京都学藝衆構想」

- 京都の本質的な価値・魅力（＝まち柄）である「歴史と文化の積み重ね」「自然との共生」「人とのつながり」を未来に受け継いでいく象徴的な取組として分野横断で展開。

#### ひらく

公共空間の活用による  
交流の場の創出  
市民、国内外の  
多様な人々の交ざり合い

～「夢中」がつなく、  
学び合いのコミュニティ～  
**京都学藝衆構想**

#### きわめる

京都の文化や産業に  
触れ、学び、探究する  
機会の創出

#### つなく

学び合いを通じたゆるやかなつながり  
京都の本質的な価値・魅力の継承  
次代の担い手育成

# 「京都学藝衆構想」は 生涯学習社会の在り方とも連動

- ▶ いつでもどこでも誰でも、学びたいことを学び体験できる  
(学校教育終了後も生涯にわたって学ぶ機会がある)
- ▶ 学びを通じて社会に関わり、貢献する。  
(個人的趣味だけでなく、学んだことを周囲や社会に還元する)
- ▶ 次の世代に学びを継承し、後継者を育成する  
(学んだことや体験した内容を、子どもたちや若者にも教え、伝える役割を果たす)

「レジリエンス」とは、さまざまな困難にダメージを受けて、落ち込むことがあっても粘り強く元に戻りながら、さらに以前より良く立ち直る力のことです。

あらゆる困難をしなやかに、力強く乗り越え、将来にわたって魅力あふれ常に復元し続ける持続可能なまち。これが「レジリエント・シティ」です。

京都が20年後、50年後も魅力ある都市であり続けることを目指して、SDGsとの融合を踏まえ、都市のレジリエンス構築を目指します。

そのために、都市は私たちにどうあるべきか、示唆に富んだ提案に、大いに刺激を受けるでしょう。

著者は、レジリエント・シティ京都市統括監で、元京都市副市長の藤田裕之さん。

誰もが、分かりやすく、理解しやすいよう、資料を随所に配し、まとめました。コロナ禍の中、それでもやってくる未来に向き合わねばならない。そんなとき、ヒントになる1冊です。

レジリエント・シティ  
京都市統括監

藤田裕之

京都！  
レジリエンス

今こそ文化を基軸に  
超SDGs  
社会の未来を考える

レジリエント・シティに選定された京都。その統括監を担う著者が、レジリエンスの概念を豊富な事例で綴った。世界有数の歴史都市を防災・減災に強い持続可能な未来都市に構想していく道筋は、副市長として京都を知り抜いた著者ならではのアイデアにあふれている。コロナ後の社会をデザインするうえでも大いに参考となる。

総合地球環境学研究所所長・前京都大学総長 山極 壽一